

令和7年度 第2回富士宮市総合戦略有識者会議 議事録

日 時：令和7年9月16日（火）午前10時00分～午前11時50分

場 所：市役所7階 710会議室

出席者：

（委員）：鈴木清秀、赤池英明、土井康志、田中正男、飯室憲一、伊藤洋子、佐藤真知子、加納永子、田中心也（欠席：定松文）

（市）：企画部長、企画戦略課長、地域政策推進室長、企画調整係長、企画戦略課職員、行政課長、富士山世界遺産課長、広報課長、デジタル推進課長、財政課長、市民生活課長、交通対策室長、市民交流課長、女性が輝くまちづくり推進室長、農業政策課長、食のまち推進室長、観光課長、商工振興課長、環境企画課長、環境エネルギー室長、福祉企画課指導係長、こども未来課長、保育支援課長、健康増進課長、学校教育課学事係長、都市計画課計画係長、建築住宅課長、危機管理局職員

次 第：

1 開会

2 挨拶

3 議事

(1) 次期総合戦略（第6次富士宮市総合計画前期基本計画（案）4つの取組を推進するための重点プロジェクト）について

配付資料

【資料1】

第6次富士宮市総合計画前期基本計画 4つの取組を推進するための重点プロジェクト案

4 閉会

議事（1）次期総合戦略（第6次富士宮市総合計画前期基本計画（案）4つの取組を推進するための重点プロジェクト）について

重点取組1

<田中正男委員>

観光ブランディング、宿泊、観光マーケティングなど関連するので、回遊性を図るのが大事、観光客は多く来ているが、中心地で滞在時間を延ばすには、宿泊施設も必要だし、ブランディングも必要であり、一体として取り組む必要があるのでは。

<企画戦略課長>

まちなかの回遊、市内全体の回遊も必要で、宿泊施設も必要であると思う。詳しくは、世界遺産のまちづくりから世界遺産課から説明します。

<富士山世界遺産課>

地域資源を活かしたまちづくりの推進、縦軸は多くの人が集まっているが、中心市街地全体に人の流れが波及していない。商店街のありかたなどについても、研究していきたい。商工会議所、商店街とも連携し一緒に、都市整備部、企画部、産業振興部連携で面的に整備していきたい。

<企画部長>

資源を守りながらも、活かして持続可能な社会を作っていくとしている。

<加納委員>

プロジェクト2「歩いて楽しめる」とありますが、アジア地域の観光施設で4位に入っている。ますます、観光客が増えると思うが、汗を拭きながらまちなかを歩いている。今の気温が今後下がるということは考えられないので、湧き水で手を洗ったり、飲めたりする場所があるとよいと思う。

<観光課>

ご提案の部分、まちなかで多くお見えになっていることは把握している。ニーズの把握は大事だと考えている。長く、快適に過ごしていただけるように考えていきたい。

水の活用については、坪庭の整備などは、各部課でやってくれているので、連携したりそれを使った取組など考えていきたい。

<企画部長>

すぐに、作ることは難しいと思うが、市街地の中心を神田川が流れているのは、貴重な資源となっている。参道軸の整備の中でも、考えている。憩いの水を活用した場所も、公園の整備などと合わせ検討したい。

<飯室委員>

まちなかの滞在時間を増やす。白糸の滝や富士山の眺望の良い場所に行く、観光用のシャトルバスなどはあるのか。シャトルバスで周遊できるとよいと思う。富士山閉山すると観光客も減ってくると思うので。要望です。

<観光課>

周遊バスについては、強力くん、構成資産を巡回するバスはある。周知が足りていない。周遊タクシーの取組などをしていただいたこともある。情報の発信をしていくことも大事だと思う。

<企画部長>

強力くんは土日祝日のみ運航、飯室委員は構成資産だけでなく別のところもということだと思う。現在、観光基本計画も見直し中ですので、検討していきたい。

重点取組2

<赤池委員>

「若者や女性にも」について、女性に特化しているのがどうなのか。

<企画部長>

国の方向性でもある。多様な価値観を持っている人に選んでもらえるまちづくり、働きやす

い、子育てしやすいまちというのが趣旨、女性の中では子育てしやすいというところではしっくりくるのでは。

<鈴木委員>

プロジェクト5 人口が減少する理由として、大学に行った若者が戻ってこないのが、引き続き取り組んでほしい。IT企業の誘致とか魅力的な就労環境など、働く場所の整備をしていただくことで、若者が戻ってきてくれることになると思うので、特に力を入れてやってほしい。

<商工振興課>

少子高齢化に向けて、我々が積極的に取り組んでいかなければならないと思う。上井出の民間工業団地も整備が予定されていることから、積極的に市も連携して誘致を行っていききたい。

<飯室委員>

空き家対策について、いまだに空き家対策が進んでいるのか目に見えてこない。民間の事業者との連携。空き家対策について、どのようにやっていくのか。今までと変わらないようであればしかたない。

<企画戦略課長>

空き家の持ち主が、活用に気持ちがいけないと活用が進まない。移住者に紹介するにしても、見知らぬ人に貸すことへの抵抗感などもあり、進みが遅い。宅建協会と協定を行い、活用に向けて取り組んでいる。建築住宅課で何年かに一度、状況把握もしている。

<伊藤委員>

警察署の上の空き家の活用。民泊での活用。パーティーでの活用など。持っている人の活用しようとする意志も大事。ちょっと目線も変えて、というのもあると思う。

<企画戦略課長>

活用の幅を広げていくのが、今後の10年を考えると必要であると思う。

<加納委員>

富士宮に来ている観光客が民泊が楽しかったというインタビューを見た。民泊を広げるのもよいと思う。

<企画戦略課長>

市民の生活を地域の魅力として使っていきたい。空き家の活用も連携していくとよいと思う。

<企画部長>

空き家が増えていくことは確実。特定空き家については、早めに対応する方策と、活用するという観点から、いろいろな方法での活用、移住者・民泊などいろいろ目を向けて考えていきたい。

重点取組3

<田中心也委員>

デジタルの活用が、効率化や広報にとどまっている。

P17プロジェクト4 人力で孤立世帯を回るのは苦勞するが、見守りIoTとかオンライン診療とか物理的に人では難しいことも、デジタルの力を活用して地域の住民の安心を深めることができれば、効果的なデジタル活用ではないか。環境整備にはお金がかかるし、デジタルディバイド対策も必要ではある。

<企画部長>

産業部分においても、教育分野、防災面（ドローンの活用）においてもデジタルの力が重要になると認識している。DXの計画の見直しも検討している。デジタル活用の重要性を感じている。デジタルはツールであるが、うまく使って生かしていきたい。

<田中正男委員>

震災を見たときに、停電、携帯の基地局が破壊されると、情報が入らない。市民に放送する。今の震災の情報の把握についてどう考えているか。牧之原の状況。避難したときに、空き巣で狙われている。市民がどのように動くのか。幼稚園や小学校の避難訓練やっていると思うが、間違った避難もあった。もう一度、震災が起きたときに、どこに避難するべきか考えるべき。市の考えを聞きたい。

<危機管理局>

停電時の情報収集は課題と考えている。同法無線については、予備電源を設定して停電時も使えるようになっている。自助の備え、防災ラジオ、乾電池などの準備をお願いしている。防災マップなどで周知して、公助プラス自助の備えをしていきたい。

<企画部長>

その後の、避難後のイメージも持った中での対策を考えるべき。行政だけでなく、地域と一緒に考えていくことが必要になってくると思う。公助だけでなく自助・共助も含め考えていきたい。

重点取組 4

<田中心也委員>

地域内でいろいろなコミュニティがあって、世代を超えた交流を進めていってほしい。女性だけ、年齢で区切ることなく。年配の人から学ぶ歴史だったり、歴史を聞くことによって地域のことが好きになったり、シビックプライドを養うには、いろいろな人と交流することが大事だと思う。事業間の交流を進めていくと、魅力ある地域になると思う。

<企画戦略課長>

将来都市像にある人の和もまさにそうである。世代間、プロジェクトの連携なども必要であると思う。

<加納委員>

グローバル人材の育成、市から出るともっとすごいところがある。海外にいった新たな視野が広がる。この活動はすごく良いと思う。

高齢者が多くなってくる。市として、その市民を守るのか。施設をたくさん作ってほしいという。施設に入ることを前提に考えている。何とかして、自分で市のために協力していきましようとか、考えながら勉強したりするとよいと思う。100歳くらいの人何かやっている人が多い。

<市民交流課>

外に出て、実際に場面を見ることで、生の刺激を受けて子どもたちが帰ってくるのがうれしく思う。外に出ることで、富士宮市の良さについて気付いてくれることも多い。将来を担ってくれる、子どもたちを今後も育てていきたい。

<企画部長>

健康寿命を延ばしていくことを目指していきたい。アクティブに挑戦して生きていってほしい。いきいきと暮らせるまちを目指していきたい。

<赤池委員>

市内の高校が、2028年度までには県立高校が2つになる。公共交通、保育園・小・中学校にも影響があると思うが、そのことについては、盛り込まれていない。

<企画戦略課長>

高校の再編、探求学習の部分では若者チャレンジ支援施設チリンなどでの活用で連携している。再編までの期間、高校の特色を未来に向かってどのように残していくのかが課題となっている。

<企画部長>

子どもの人数が減少することはわかっている。小・中学校などの在り方についても検討すると入っている。再編は避けて通れない。こどもたちのためになるように、教育環境についても考慮していく。

跡地利用については、市の計画の中では読み込めるようにしている。市・行政・企業などと連携して将来を考えていけるようにしたい。

<赤池委員>

重点4では、子どもだけではないと言っていたが、子どもなしで、将来はないと私は考えている。教育の質が大事。探求学習も多くの生徒が観光について学んでいる。

<加納委員>

こどもが600人しか生まれていない。600人のこどもがほかの地域に行かないように、地域で支えていくことが大事。お母さんたちの交流の場が大事。ここに行けば安心というのを児童館でやってもらっているが、生まれたときに、ここに行けば大丈夫という場所を教えてほしい。

<健康増進課>

妊娠から出産・子育てまで伴走型で保健師がフォローしている。産後ケア事業や子育て応援ヘルパーなども充実していく予定。親が子育てをすべて担うのではなく、社会全体で子育てを支える体制を考えていきたい。

<企画部長>

子育てを地域一体となって取り組んでいくことが大事だと思う。具体的な内容について、ご意見があればお知らせいただければと思う。

<土井委員>

富士宮市のためにいろいろ考えていただきありがたい。

市民が安心を持てるようなまちづくりをしていただきたい。仕事、医療・福祉・介護であったり、今後も継続していただければ。こんなこともやっているという情報発信をしっかりとしてほしい。

<佐藤委員>

多様性という言葉があった。私は東京から移住しているが、未婚でこどもを産んでいる。東京だと当たり前、町内会の人に言ったらわざわざ言わなくてもよかったのにとという人もいた。自分のキャリアの話をしてほしいという依頼を受けることもある。

自分が富士宮に生まれていたら、ここで産んでというのは難しいなと思う。結婚・出産・キ

キャリアも一緒だと思う。こういう生き方もあるんだということを聞く機会があったらよいと思う。

<女性が輝くまちづくり推進室長>

女性のほうが、働く場所、しがらみ、生活しづらいという感想を持っている人が多い。

アンコンシャスバイアス、男性だから、女性だからとか無意識のうちにあって、ハードルになっていることが分かっている。若者への講座、事業所向けセミナーなどを実施していきたい。すぐに効果は出ないと思うが、意識改革に向けて取組を続けていきたい。

<飯室委員>

分娩できる病院が市立病院のみだったり、宮バスの使いやすさ改善、なかなか進まない問題について、何とか進捗させていただきたい。

<企画部長>

第5次の積み残し、達成できていない施策については、引き続き取組に位置づけ、施策を進めていく。

以上